

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600022		
法人名	社会福祉法人 八甲田会		
事業所名	グループホーム西小稲八甲荘		
所在地	〒034-0001 青森県十和田市三本木字西小稲195-1		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成27年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ゆったりとした雰囲気の中、利用者様のペースで過ごすことができ、役割や楽しみを持っていただくことで、生活の質の向上、認知症状の進行を軽減できるよう、支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街に立地しており、明るく広いリビングでは訪問の方々が定期的に来ており、利用者を楽しませてくれている。また、浴室からは坪庭を見る事ができゆったりとした入浴ができる環境となっている。職員の関係性が良く、運営するにあたり非常に風通しが良い事で、ケアに対するモチベーションも高まり、理念に基づいて利用者への立場に立ってケアが行われている。また、広報誌は利用者毎に個別で作成しており家族からも好評である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目の届く所に提示しており、日々、確認している。また、月1回の法人の会議にて、唱和している。内部研修にて、理念・7か条について、話し合いを行い、実践に繋げることができるよう、努めている。	理念を日々目の届く場所に掲示し、毎月行われる会議にて唱和している。日常的にケアに迷う場面等では、理念をケアの根拠とし、立ち返る場所としている。また、理念から職員個々の達成目標を設定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の盆踊り大会に参加している。また、地域のボランティア(紙芝居・大正琴・歌や踊り)に来ていただき、交流を多く持っている。近隣の保育所の園児と、散歩中は挨拶を交わしている。地区の中学校の職場体験の受け入れを行っている。	町会費を納めており、回覧版が回って来る等、町会の一員として地域と付き合っている。段ボールや新聞回収等、町会に協力する活動も行っている。また、地域の中学生の職場体験や保育園児の訪問の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて勉強会を行ったり、意見交換をしたりしている。今後、地域包括支援センターと市内グループホームで協力し、徘徊模擬訓練を行う予定となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行い、利用者様の状況や行事等の報告、また外部評価の結果の報告、話し合いを行い、サービスの質の向上に努めている。	普段の状況報告を行い意見交換し、ボランティアの受け入れや認知症について勉強会を行うなど、共に質を向上させる事に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールのやりとりや、地域密着型サービスの集団指導に参加する等し、情報交換を行っている。今後、地域包括支援センターと市内グループホームで協力し、徘徊模擬訓練事業を行う予定となっている。	市役所の企画で認知症の模擬搜索訓練を行っており、市内のグループホームが共同で参加し、連携を図っている。また、生活保護受給者の保護についても連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束を行わないという共通の認識を持っている。また行動障害のある方に関しては、その方の思いをくみ取り、対応できるように話し合いを行い、ケアに取り組んでいる。	不適切な声掛けによるスピーチロックを行わないよう、理念を振り返り、身体拘束を行わないよう取り組んでいる。また、落ち着かない利用者の行動を静止せず一緒に寄り添い、散歩をする等している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行い、理解を深めている。また、虐待が見過ごされることがないように、職員一人ひとりが注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度に関する勉強会を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時や料金の改定の際は、十分に説明をし、納得していただいた上で、署名・捺印をしていただいている。また、不安や疑問点には、丁寧に説明をし、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族が、意見・要望を話しやすい雰囲気作りで努めている。また、訴えが思うようにできない方に関しては、表情やしぐさで、思いをくみ取るように努めている。意見や要望に関して、職員間で話し合うようにしている。	運営推進会議に参加する家族から意見を吸上げている。また、日頃から面会時は介護計画に対する意向や、日々の運営に対する意向を聞き出せるように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、毎日の申し送り・カンファレンス等で、意見を聞く機会を設け、検討している。	毎月の会議や日々の申し送り等で、上司に業務改善等を提案している。また、職員間の連携もよく、管理者は風通しを良くし、意見を出しやすくするなどし、意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約職員が正職員への登用希望をした際は、管理者が職員個々の努力や実績・勤務状態を報告している。公休に関しては、個々の希望通りに休めるように、努めている。また希望した研修を受けられることができるように、意見を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に内部研修の予定を組み、毎月、勉強会を行っている。また、外部研修に全ての職員が参加できるように努めている。研修後は、研修発表を行い、職員のスキルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の集団指導や勉強会に参加し、意見交換等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、ご本人が困っていること、不安なこと、要望等をよく聴くように心がけている。職員間で内容を共有し、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時や契約時に、ご家族が困っていること、不安なこと、要望等をよく聴くように心がけている。ご家族が何でも話しやすい雰囲気作りをし、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に見えた段階で、グループホーム入居が一番必要なサービスかどうかを見極め、検討している。必要に応じて、ご本人・ご家族・担当ケアマネと再度検討し、他サービス利用への助言・紹介ができるような体制作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除や食器の片づけ、調理等、一緒に行い、職員も利用者様も共に生活している仲間として、できることは、役割を持って行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時は、居室にてお茶を飲んでいただきながら、ゆっくりと過ごすことができるようにしている。月1回、個々のお便りを発行し、近況報告をしている。また、ご家族に手伝っていただける部分は、お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの美容院へ行けるように支援している。また、かかりつけ医の継続や、行きたいスーパーへの買い物支援等行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	信仰している寺院等への参拝や、墓参りは家族と連携を図り対応している。通院等定期的に外出する際には、自宅へ立ち寄っている。また、隣人の方の訪問が1～2か月に1度あり、継続的に来ていただけるよう、居心地の良い環境を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員間で申し送りをし、情報を共有している。必要時は職員が間に入り、関係が良好に保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族が来荘された際は、近況を伺ったり、困っていることはないか等、声を掛けている。必要時は、相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りや、ご家族からの情報収集で、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、表情やしぐさ等から思いをくみ取ることができるように努め、職員間で検討している。	日常生活の中で何気ない場面や、独り言のような事から、生活歴や意向等の想いを聞いたりした場合は、全職員で記録している。	住み替えも考えられる利用者の生活は、継続される必要性があるので、全職員で書き留め、個々の利用者の思いや意向等、生活が継続される取り組みを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取り、担当ケアマネからの情報収集、センター方式を部分的に活用したアンケートを書いていただく等を行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りや、入所時の情報、入所後の観察、記録、情報の共有にて、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向の確認、モニタリング、アセスメント、カンファレンスを行い、関係者の意見を反映した介護計画を作成している。	6か月でプランの見直しを行い、3か月でモニタリングし、定期的に確認されている。見直し前には家族や本人の意見を吸い上げプランに取り入れ、職員と話し合いカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、申し送り、カンファレンス等で情報を共有している。また、それらを反映させながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対して、柔軟に対応することができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、活用しながら暮らしを楽しむことができるように支援している。ボランティアの慰問、盆踊り大会への参加等、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院前からのかかりつけ医の継続を基本とし、通院の支援をしている。必要時は相談し、助言をいただいている。受診結果は、その都度、ご家族に報告している。	入居後も馴染みのかかりつけ医へ定期的に通院出来る様、家族が付き添いをして支援している。また、緊急時に対応マニュアルが有り、必要な場面では職員も同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師、母体施設の看護師、協力医療機関の看護師と連携を取りながら、利用者様の健康管理を行い、必要時、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院やご家族と連絡を取り合い、状態の把握や情報交換に努めている。また、普段からかかりつけ医に病状の報告を細かく行い、状態が悪化した場合の入院先を検討する等、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ターミナルケアは行っていないが、入所時に、重度化した際の当グループホームでできる対応について説明をし、ご家族の意向を確認している。	法人に特別養護老人ホームがあり、法人の中でのグループホームの位置付けとして活動して生活する場になっている。入居の時点で特別養護老人ホームへの申込み提案し法人として重度化や終末期をどのように支援するかを伝え入居時に意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の勉強会を行っている。また、無断離荘時や急変時の対応手順を準備し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち会いの訓練の他に、毎月、避難訓練を行っている。運営推進会議の場でも行い、災害時には相互に協力できるように呼びかけている。また、火災受信した際は、近所の方にも通報されるシステムとなっている。非常時の備品や非常食を確保している。	毎月避難訓練を行い、近所の方に通報されるシステムとなっている。備蓄食なども準備し、定期的に更新されている。訓練の経験から近所の火災時に、消火器を使用して消火したこともあり、地域の福祉避難所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、理解に努め、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや、対応を心掛けている。	認知症の利用者に対する言葉使いで不適切になりそうな場面では、互いに声掛けし、理念を振り返り人格を尊重するように努めている。排泄ケアでは必要な部分は手伝うが、トイレから出て待機し、プライバシーを尊重するように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのお話をよく聴くようにしている。また、衣服の選択や選択食等、自己決定できる場を設けている。意思決定が困難な方は、表情やしぐさから、思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、畑の手入れ、外出等、一人ひとりの希望に可能な限り添えるように努めている。一人ひとりのペースを大切にするように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の衣服の選択や、馴染みの美容院の利用、訪問美容師が来荘した際の髪型の希望、買い物に出かけた際の好みの衣類の購入等、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑と一緒に収穫した野菜を、献立に取り入れられている。おにぎり作り、皮むき、盛り付け、団子作り、片付け等、一人ひとりの能力に応じて、一緒に行っている。食事が楽しみなものになるように支援している。	法人内の栄養士が監修してメニューを作成しており、体重管理を行っている。また、グループホームにある畑の作物を利用し、献立にプラス1品し、季節を感じながら食事を楽しんでいる。また、野菜の下処理や下膳等も利用者と共に日常的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を記録し、把握している。むせ込みのある方には、とろみをつけたり、好き嫌いのある方には、好みの飲み物を提供する等し、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自力にてできる方には、職員見守りのもと行っていたいっている。不十分な方は、できないことのみ介助している。うがいは殺菌作用のある緑茶にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、その方に合わせて声かけや誘導を行っている。夜間は、その方の状況に合わせて、ポータブルトイレを使用し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて、個々の排泄のパターンに合わせて声をかけ誘導を行っており、リハビリパンツやパットのみと自立に向けたものを使用している。グループホーム内で状態悪化した利用者も、状態の向上に合わせて見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄のパターンを把握している。その方に合わせ、歩行を促したり、ヨーグルト・牛乳・果物等、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週4日の入浴日を設け、最低2回は入浴できるように、一人ひとりに合わせて支援している。入浴日以外でも、希望に添えるように支援している。	プライバシーを尊重し、マンツーマンで入浴介助を行っている。入浴日は決まっているが、夏場の畑仕事の後や、受診日の前日など適宜入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、一人ひとりの生活習慣に合わせて過ごしていただいている中で、1日2回のラジオ体操や、レクリエーションにて、適度に体を動かす時間を設け、夜間の安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のファイルにて、いつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時は、効果や副作用等について把握し、共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップかけ、洗濯物たたみ、食器洗い、食器拭き、盛り付け等、個々の能力に応じて役割を持っていただいている。また、散歩や外出、レクリエーション、各種行事等により、楽しく過ごしていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、母体の施設の行事、買い物等、希望を取り、外出の機会を多く持てるように支援している。また、地域の盆踊り大会や、母体の施設の納涼祭は、ご家族や地域の方とも協力し、楽しく過ごしていただいている。ご家族と一緒に外出される方も多い。	近所の盆踊りや、日常的な外出等を支援している。また、同法人の行事や食事会等を企画し、実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを所持している方には、買い物に出かけた際、支払いを行っていただいている。また、こちらでお小遣いを預かっている方は、希望の物を購入した際、一緒に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるように支援している。携帯電話を持っている方もおり、使用の介助を行い、ご家族やご友人に連絡できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃によるきれいな空間作り、温度・湿度・照明のこまめな調整、季節の花を飾る等し、居心地よく過ごしていただけるように努めている。また、時季には七夕飾り・クリスマスツリー・ひな人形を飾る等し、季節を感じていただけるように工夫している。	天井が高く明るい室内であり、採光が上手にできており暖かい雰囲気である。装飾も季節に合わせて飾り付けており、生花の装飾も利用者や職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースであるリビングや食堂は、利用者様がそれぞれ好きな場所で過ごしていただけるように、ソファやテーブルを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人・ご家族と相談し、馴染みの家具や物を持ってきていただいている。家具の配置を工夫したり、写真を飾ったりし、ご本人が居心地よく過ごせるように配慮している。	馴染みの家具等持ち込みしており、利用者が落ち着く居場所作りに取り組んでいる。備え付けで写真を飾る場所が用意されており、思い思いに写真を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、各所に手すりを設置している。また廊下を広くとり、歩行器や車椅子でも、ゆとりを持って移動できるようになっている。		